

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 **3** 回 助成期間：平成**18**年11月1日～平成**19**年10月31日

テーマ： 地域の環境に学び、地域の環境を大切にする子の育成

氏名： 池田 幸雄 所属： 横浜市立文庫小学校

1. 課題の主旨

本校周辺には、称名寺・金沢文庫などの文化財や海の公園、柴漁港などがあり、自然環境や社会環境に恵まれている。そこで本校では、学校教育目標として「地域の人、自然、文化を取り入れた学習を進めます。主体的に学習に取り組めるよう、学習環境の充実を図ります。」、合い言葉として「友達がすき 学校がすき この『まち』がすき」を設定した。具体的には、各教科等や総合的な学習の時間を通して「地域の人、もの、ことを有効に活用した単元」の開発を図り、学習をいっそう充実させると共に、子どもたち一人ひとりが自分たちの住む「文庫のまち」に愛着をもつことができるようにしたいと考えた。これらの取組をさらに重点化し、地域環境に対する見方・考え方をより深め、地域環境にはたらきかける子どもを育てることをねらって、本申請テーマを設定した。

2. 準備

研究の視点の設定

◎地域の環境に学び、地域の環境を大切にする子を育てるための学習過程、指導法の研究

- ①地域の「人」「もの」「こと」を有効に活用した「環境教育」の展開やその指導法を研究する。
- ②「環境」を広義に捉えた多様な「環境教育」を模索する。
- ③本校の「総合的な学習の時間全体計画」「学年教育プラン」等を見直す。

3. 指導方法

研究方法

- ①授業実践をもとに研究を進める。
- ②研究の視点にかかわる研究会をもつ
- ③研究紀要を作成し、授業や部会研究についての考察を書く。
- ④市環境教育実践推進校にかかわる報告書をまとめる。

4. 実践内容

①**地域環境に学び、地域環境を大切にする子を育てるための学習展開について**(生活科、総合的な学習の時間での実践例)

《1年生》単元「しぜんとなかよしたんけんたい」では、年間を通して地域の自然環境とふれあい、身近な場所のよさに気づくことができる学習を展開した。具体的には、称名寺や海の公園などの自然の様子や季節の変化に目を向け、落ち葉や木の実などの自然物を使って遊んだり、虫などの生き物を飼育し生命の大切さにふれたりする学習などを行った。

《2年生》単元「もっと知りたい 文庫のまち」では、まち探検を通して、まちのさまざまな場所、自然、人々に親しみをもってかかわることができるような単元を展開した。具体的には、称名寺、海の公園、柴漁港などを探検し、まちの人、もの、ことへの気づきを深め、自分たちの「まち」のよさを身近な人々に対して表現できるような学習などを行った。

《3年生》単元「海・海たんけんたい～〇〇はかせになろう」では、海の生き物や環境を自分たちの課題をもって調べる活動を通して、海や海の生き物を大切にしていこうとする態度を育てることができるような学習を展開した。具体的には、海の公園に出かけ、海の生き物に親しんだり学校で飼育したりするとともに、カニやアサリなどの海の生き物やアマモなどの海草などについて詳しく調べて発表する、というような学習を行った。

《4年生》単元「めざせ！文庫の塩はかせ」では、海の「塩」に目を向け、「塩作り」という体験を通して、地域の人々とふれあったり、地域の歴史に気づくことができるような単元を展開した。具体的には、海の公園で採取した「海水」から塩を取り出したり、地域の名人から「塩作り」を教えてもらったりしながら、地域の海の環境や地域の歴史に目を向けていく学習を行った。

《5年生》4年生までの「環境にかかわる学習」を生かしながら、一人ひとりの子どもの問題意識を大切に、学習を展開した。具体的には、柴漁港での漁獲量の減少が海の汚染のせいではないかと考え、海の環境問題を追究する学習、地域の公園へのミニ遠足やごみ拾い活動など具体的な体験を段階的に積み重ねることで、一人ひとりの子どもの地域環境に対する見方や考え方を深め、都市部の自然を大事にしようとする意欲や態度を育てる学習を行った。

《6年生》5年生までの「環境にかかわる学習」を生かしながら、一人ひとりの子どもの問題意識を大切に、よりよいまちづくり・環境づくりを志向した学習を展開した。具体的には、海の公園の風と太陽光に目を向け、代替エネルギー、さらにはクリーンなエネルギーに着目したエネルギー問題を迫る学習、「文庫の海の埋め立て」の学習を通して、文庫の海の歴史やその底に流れる地域の人々のさまざまな思いや海の環境への影響を追究していく学習を行った。

《個別支援学級》学校や地域の畑などで野菜を栽培、収穫、調理するという活動を通して、まちの環境と具体的にふれあう学習を展開した。

②地域環境に学び、地域環境を大切にすることを育てるための指導計画作成、運営、改善について

- ・本校の総合的な学習の時間全体計画や生活科指導計画を環境教育の観点から見直し、実践を通して修正を加えている。
- ・本校の環境教育全体計画をもとに、各学年の各教科等年間指導計画を作成し、実践を通して修正・改善を行っている。
- ・文庫水族館などの学習環境整備を年間を通して行っている。（職員組織に学習環境部会を設置し、研究に取り組んでいる）

5. 成果・効果

本校のさまざまな実践により、子どもたちは「環境」という視点から「まち」を見直すことができた。その結果、自分たちの周りの「まち」をより身近に感じ、愛着をもつことができるようになってきている。同時に、「環境」を大切に、守っていくことの大切さに気づくことができている。高学年では、より広い視野から「環境」を考えたり、直接「環境」にはたらきかけたり、「環境」を守るための活動にすすんで参加したりする子どもも増えてきている。今後も実践を重ねていきたい。

6. 所 感

身近な地域の教材を生かした学習を展開する中で、子どもたちは自分の目で、手で、足で多くの「ひと」「もの」「こと」にかかわってきた。とくに、近隣にある「海の公園」を材に取り上げた学級では、「海の生き物」「海の環境」「風力エネルギー」「太陽光エネルギー」などと取り組み、「環境」に関心をもつ子が育ってきている。この度の理科・環境教育助成によって得られた成果をもとに、今後も、本校の特色である豊かな学習環境を生かした「環境教育」を進めていきたい。

7. 今後の課題や発展性について

研究課題「地域の環境に学び、環境を大切にする子の育成」

研究内容 ①地域環境に学び、地域環境を大切にする子を育てるための学習展開を研究する。

②地域環境に学び、地域環境を大切にする子を育てるための指導計画・運営・改善

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

口頭発表

1. 6年1組:「未来のクリーンなエネルギーを生み出そう」(クリーンなエネルギーの価値、必要性、問題点、普及率、今のエネルギーの問題点、温暖化防止対策等発表)(クリエイティブ賞受賞)「はまっこソーラー発表会」横浜市環境創造局主催、県教育会館、2007年1月
2. 5年4組:「海の調査隊」(海の公園を中心に調査し、「砂浜の魅力」について発表)「森・川・まち・海をつなぐ環境学習会」金沢森と川と海の市民会議主催、横浜市立大学シーガルホール、2007年3月

【教材制作方法】

- ・実施内容が教材開発の場合、ここから1～2ページ使って、教材の制作方法を記載願います
- ・実施内容が教材開発でない場合、このページ以降を削除願います

